



市町村のまちづくり

土木研究所跡地 防災公園整備事業

～神栖市の新たなシンボル 神栖中央公園が開園～

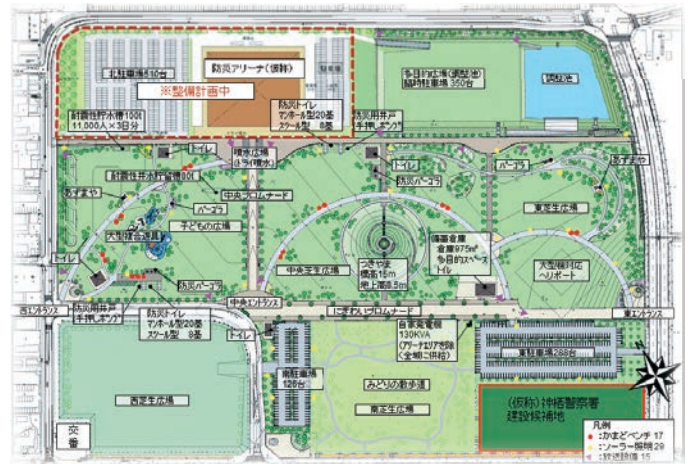
神栖市都市整備部施設管理課 課長補佐 出 沼 和 弘

経 緯

神栖中央公園の敷地は、かつて旧建設省土木研究所鹿島試験所があった場所で、通称「土研跡地」と呼ばれており、面積は21.5 ha、東京ドーム約4.5個分の広さがある国有地でした。昭和54年に土木研究所がつくば市に移転になって以降、当時の神栖町では跡地利用に関して何度も議論を重ねられましたが、およそ30年間にわたり有効利用がなされませんでした。

それが、平成17年8月、神栖町と波崎町の合併による神栖市の誕生を機に、総合計画及び新市建設計画「神栖市まちづくりプラン」において「憩いとにぎわいの場となる環境に配慮した新広域都市拠点」として位置づけられ、土地利用計画を防災公園と定めたことにより、平成21年に念願であった国有地の払い下げが実現しました。

こうして、災害時には防災機能を発揮し、平常時には多くの人々が憩える総合公園の整備、及び防災アリーナの導入を図ることを目的に事業が進められることとなったのです。



神栖中央公園 平面図

平成23年度には、一次造成工事が行われ、公園敷地を周囲の土地よりも平均1.5m高くなるよう（標高約6.5m）盛土するとともに、調整池、その流末排水路を整備しました。24年度は、雨水排水本管、污水排水、電気設備、園路や道路の一部、また、防災機能を持つ施設として、つき山、耐震性貯水槽、防災トイレ、防災用井戸などを整備しました。万が一の津波避難のためのつき山は、道路や下水道の震災復旧工事から排出された残土が有効活用されています。最終年度となる25年度には、市の備蓄の中心となる防災備蓄倉庫、トイレ、あずまやなどの建築物や、太陽光発電型照明、大型複合遊具、園路、広場、植栽工事などを行って工事を完了し、芝生の養生期間において平成26年6月1日の開園式を迎えました。

防災機能

神栖中央公園は、最大で約60,000人が一時避難可能な規模を有します。芝生部の面積は約12haあり、万が一災害が起こった際には、一時避難スペース、自衛隊の駐屯利用や物資の集積・仕分けなどの救援活動支援ス



ふれあいの丘（つき山）



昭和50年当時の土木研究所（国土地理院）

第Ⅰ期整備概要

平成21年度に基本設計、平成22年度には実施設計を行うとともに、仮囲いの設置や伐採等の工事に着手しました。翌年の3月11日には、東日本大震災に見舞われ、本市においても津波や液状化などによる被害が大きかったため、災害復旧を優先すべきとの声もありましたが、防災公園の必要性があらためて重要視されたことから、事業は中断することなく進められました。

ペースとして利用することを想定し、広大なオープンスペースを設けました。

備蓄倉庫は、鉄筋コンクリート造2階建て、広さ975㎡の備蓄スペースに、非常食や飲料水、毛布やカセットコンロなどの生活用品、発電機や投光機などの資機材が備蓄されており、神栖中央公園で必要な分だけでなく、市の備蓄の中心となる倉庫です。屋根には太陽光発電パネルも設置されています。



神栖市総合防災備蓄倉庫

地下に設置された耐震性貯水槽は、11,000人が3日間で必要とする飲用水100㎡を確保でき、上水道から常に新しい水が循環しているため、地震などにより断水しても、新鮮な水が残る仕組みになっています。また、芝生の散水用に地下水をくみ上げておく80㎡の井水貯留槽は、災害時は生活用水として利用することができます。

園内2ヶ所に16基設置された椅子は、防災トイレです。

椅子のふたを開けて中ぶたを反転させると便座が現れます。このほかに40基のマンホール型トイレがあり、備蓄倉庫に備えたテントをかぶせて使します。



防災トイレ

使用後は、手押し式ポンプや井水貯留槽から引いた水で、直接公共下水道に流す仕組みになっています。

かまどベンチは、園内各所に17基設置されています。



手押し式ポンプ

ゴラが、園内2カ所に設置されており、災害時には、縁台下に収納されたテントを張り、救護スペースとして利用することができます。

停電時の対策としては、太陽光発電型照明29基のほか、自家用発電機が自動で作動し、園内の外灯、トイレ、備蓄倉庫などへ電気を供給します。



防災パーゴラ

芝生広場のヘリポートは、自衛隊の大型機に対応しており、訓練やドクターヘリの離着陸にも利用されています。

平成26年8月30日には、茨城県・神栖市総合防災訓練が実施され、神栖中央公園はその中心会場となり、各関係機関が連携する人命救助や、住民の避難訓練を通じて防災への意識を新たにしました。

■にぎわいと憩いの場

神栖中央公園は、子どもからお年寄りまで、家族や友達との憩いの場として、また健康づくりの場として、市内外から大勢の人々が訪れて大変なにぎわいを見せています。休日には多くの親子が遊具や噴水で楽しそうに遊んでいる様子が見られます。9月に開催された「かみす舞っちゃげ祭り」では、2日間で延べ38,000人が訪れ、かつてないにぎわいとなりました。



神栖中央公園は、神栖市の新たなシンボルとなる、さまざまな分野で大きな資質を持った公園です。

■今後の取り組み（第Ⅱ期整備計画）

神栖中央公園は、現在、約16haが整備されていますが、災害時の避難所機能及び屋内に求められる救援救護活動スペースがないため、災害時の拠点施設の建設が最も重要な課題となっています。現在、その機能確保を目的に防災機能を持つ多目的施設として、防災アリーナ（仮称）の整備を計画しています。